

患者さまへ

「誤嚥性肺炎患者の訓練量と訓練開始時期が転帰先に与える影響」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2020年9月から2023年12月までに誤嚥性肺炎で当院に入院された方
2 研究目的・方法	<p>令和4年時点で65歳以上の総人口率は29%となり、年々高齢化率は上昇しています。高齢者に多い感染症としては肺炎があげられ、飲み込む能力の低下や免疫力の低下等により発症しやすく、70歳以上の肺炎患者さまの80.1%が誤嚥性肺炎と報告されています。高齢者は入院に伴い日常生活動作(Activities of daily living: ADL)の低下が生じ、特に70歳以上の高齢者では退院後に35%の患者さまでADLの低下が生じていたことが報告されています。よって、高齢者が誤嚥性肺炎を発症することは深刻な問題として捉える必要があります。</p> <p>誤嚥性肺炎患者さまに対して早期リハビリテーション(以下リハビリ)を行うことで歩行能力やADLの改善に影響を与えると報告されています。また、自宅退院が可能となる要因には、ADLやリハビリ訓練量、入院から食事開始日数等があげられています。しかし具体的なリハビリ訓練量と訓練開始時期が転帰先についてはよくわかっていません。そのため本研究では、誤嚥性肺炎患者さまへのリハビリ訓練量と訓練開始時期が転帰先に与える影響について分析し、現状のリハビリを明らかにすることを目的といたします。</p> <p>研究の期間: 施設院長許可(2024年7月予定)後~2025年3月31日</p>
3 情報の利用拒否	<p>情報が当該研究に用いられることについて、患者さまもしくは患者さまのご家族等で患者さまの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。</p>
4 研究に用いる情報の種類	年齢、性別、身長、体重、Body Mass Index、入院前ADL、介護保険の有無、チャールソン併存疾患指数、併存疾患、合併症、入院日、退院日、入院から食事開始した時期、転帰先、入院時ADL、退院時ADL、訓練開始時期、リハビリ訓練量、人工呼吸器の使用の有無、同居者の有無、同居者の人数、血圧、酸素飽和度、意識障害の有無、血液検査結果等
5 お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 落合佑太 湘南鎌倉総合病院 リハビリテーション科 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号:0467-46-1717</p>